

2016年度 第2四半期決算説明会 - 古河電池について -

2016年11月10日
古河電池株式会社
代表取締役社長 徳山 勝敏



目次



1. 会社紹介
2. 16年度第2四半期決算・通期業績予想ハイライト
3. 中期ビジョン2018の進捗

目次



1. 会社紹介

2. 16年度第2四半期決算・通期業績予想ハイライト

3. 中期ビジョン2018の進捗

会社概要

- **商号** 古河電池株式会社
(The Furukawa Battery CO., LTD.)
- **設立** 1950年（昭和25年）9月
(古河電気工業(株)の電池部門が独立)
- **本社** 横浜市保土ヶ谷区星川
- **社長** 徳山 勝敏
- **資本金** 16億4,000万円^{*1}
- **売上高** 541億600万円^{*2}
- **主要事業** 鉛蓄電池、アルカリ蓄電池、電源装置 等
- **従業員数** 909名^{*3}



*1 2016年9月末現在

*2 2015年度（2016年3月期）連結実績

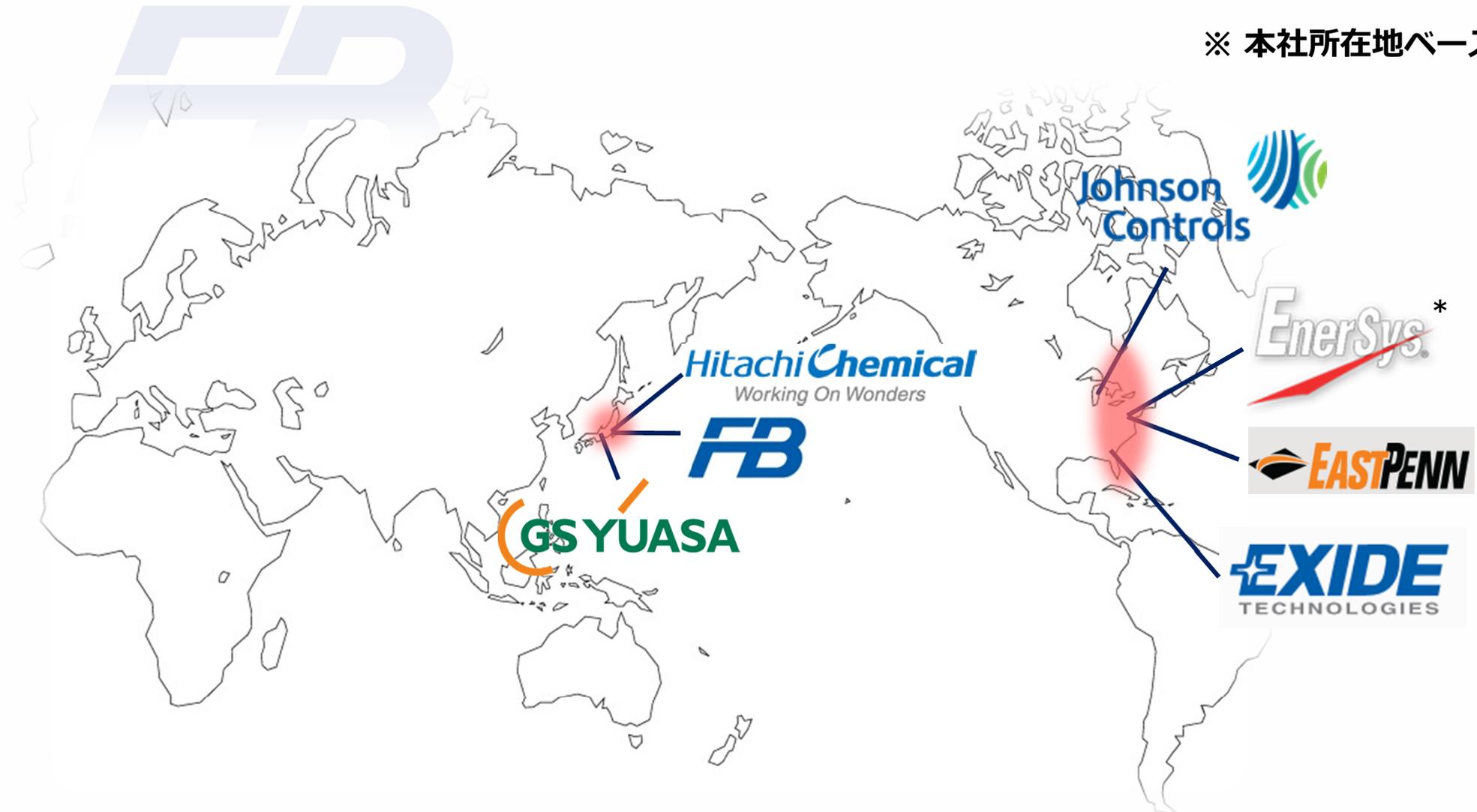
*3 単体、2016年3月末現在

沿革

1914	古河電気工業(株)、兵庫県尼崎市に電池製作所を開設
1937	古河電気工業(株)、横浜市保土ヶ谷区へ電池製作所を移転
1950	古河電気工業(株)の電池部門を継承し、古河電池(株)として発足
1970	今市工場（栃木県日光市）建設
1978	いわき工場（福島県いわき市）建設
1986	エフビー工場（栃木県日光市）建設
2002	SIAM FURUKAWA CO., LTD 子会社化
2003	世界初 宇宙用リチウムイオン電池開発。小惑星探査機「はやぶさ」に搭載
2010	金星探査機「あかつき」にリチウムイオン電池搭載
2011	(株)日本政策投資銀行 環境格付審査にて、鉛蓄電池業界初の最高ランク取得
2012	アイドリングストップ車用バッテリー（ECHNO IS）およびハイブリッド専用補機バッテリー（ECHNO HV）発売
2013	インドネシアにPT.FURUKAWA INDOMOBIL BATTERY MANUFACTURING 設立
2014	世界初 紙製容器でできた非常用マグネシウム空気電池「MgBOX」発売
	小惑星探査機「はやぶさ2」にリチウムイオン電池搭載
2015	インドネシア 自動車用鉛蓄電池工場完成
2016	ベトナム Dry Cell and Storage Battery Joint Stock Company(PINACO) の株式取得

世界の主な鉛蓄電池メーカー

※ 本社所在地ベース



* EnerSys社：産業用蓄電池・フォークリフト用電池事業を展開

鉛蓄電池市場グローバルシェア *

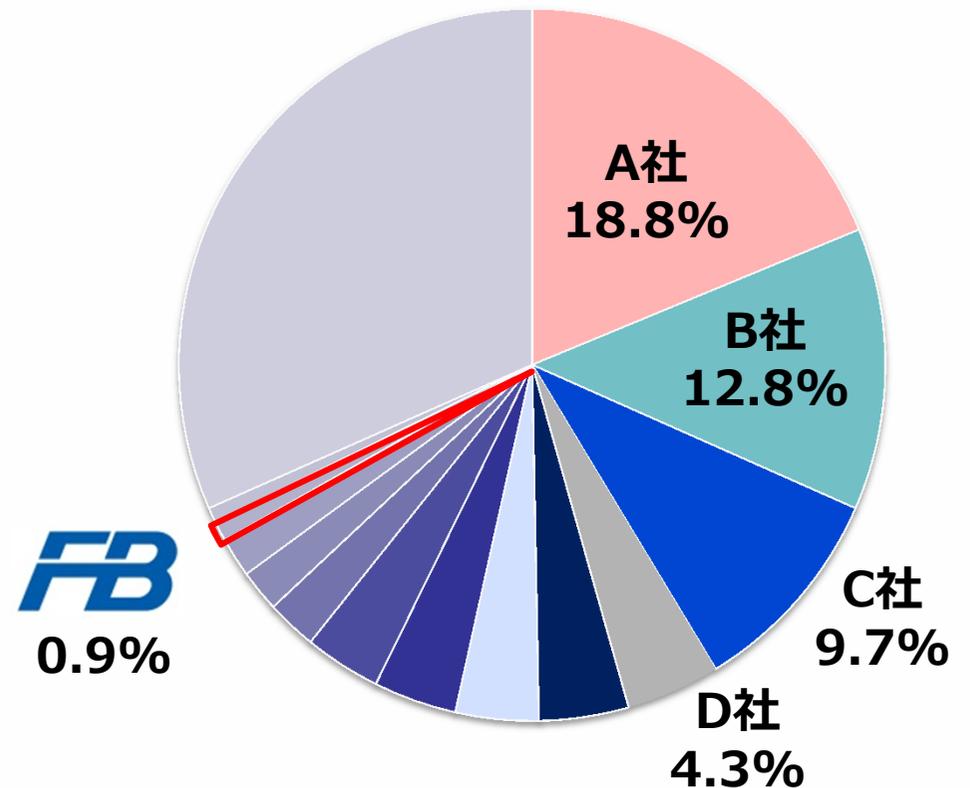
■ 売上高

(億円)

	2014年 実績	シェア
A社	5,464	14.5 %
B社	2,650	6.8 %
C社	2,500	6.4 %
D社	1,950	5.0 %
E社	1,590	4.1 %
⋮	⋮	⋮
古河電池 FB	360	0.9 %
その他		62.3 %
合計		100.0 %

■ シェア (自動車用電池)

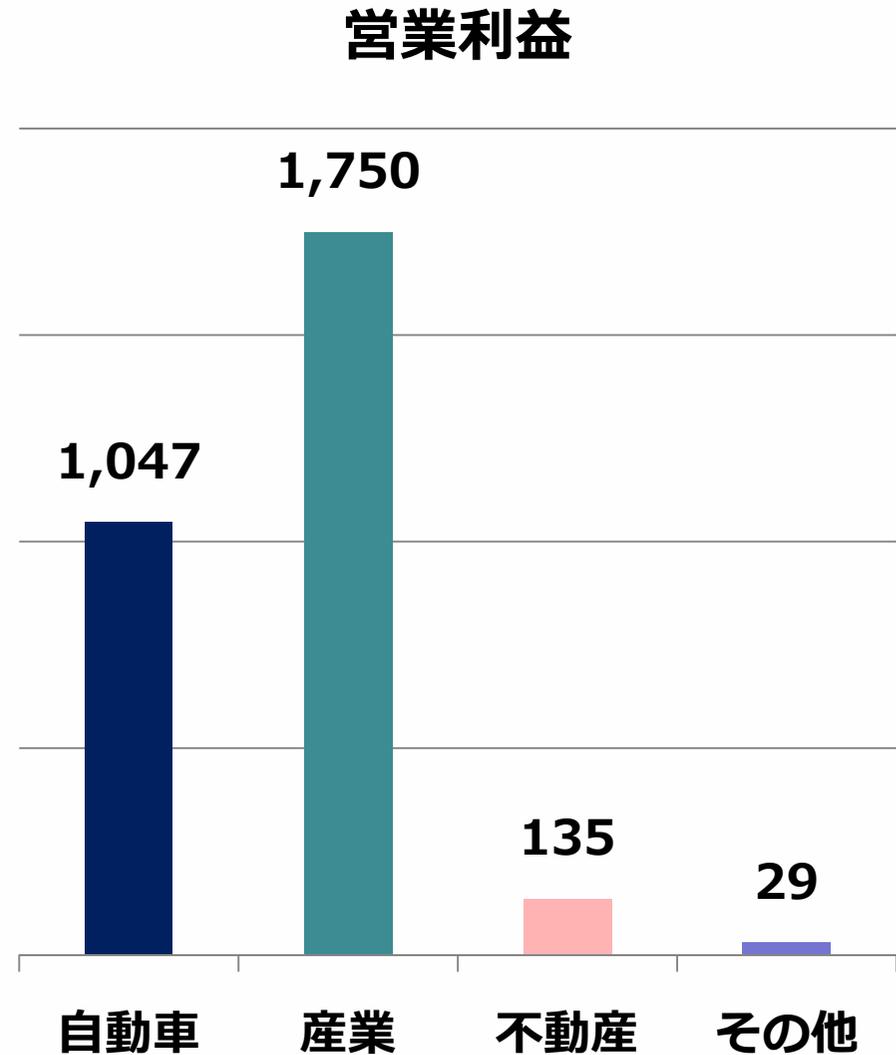
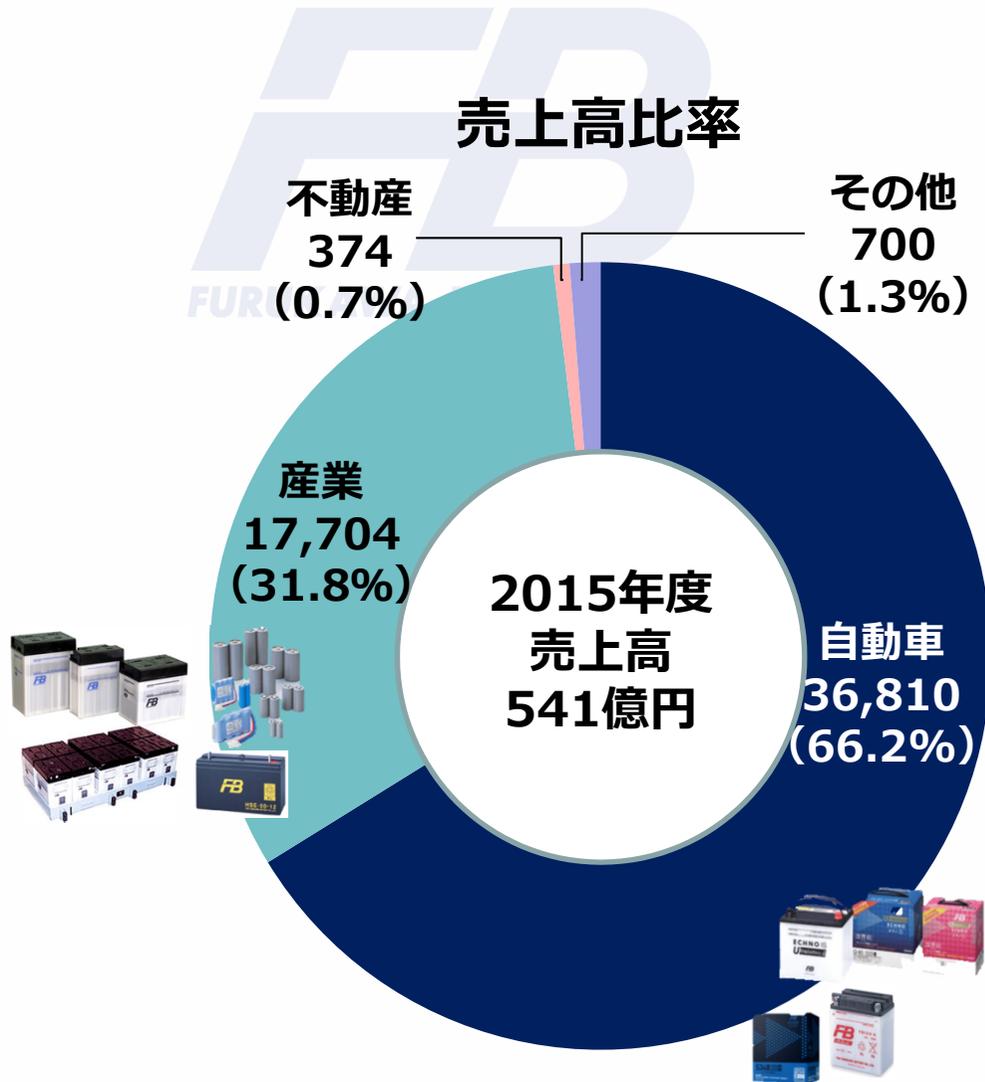
※ 販売数量ベース、2014年実績



* 出典：富士経済「2015 電池関連市場実態総調査 上巻」

セグメント紹介

(百万円)



* セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含みます。

目次



1. 会社紹介
- 2. 16年度第2四半期決算・通期業績予想ハイライト**
3. 中期ビジョン2018の進捗

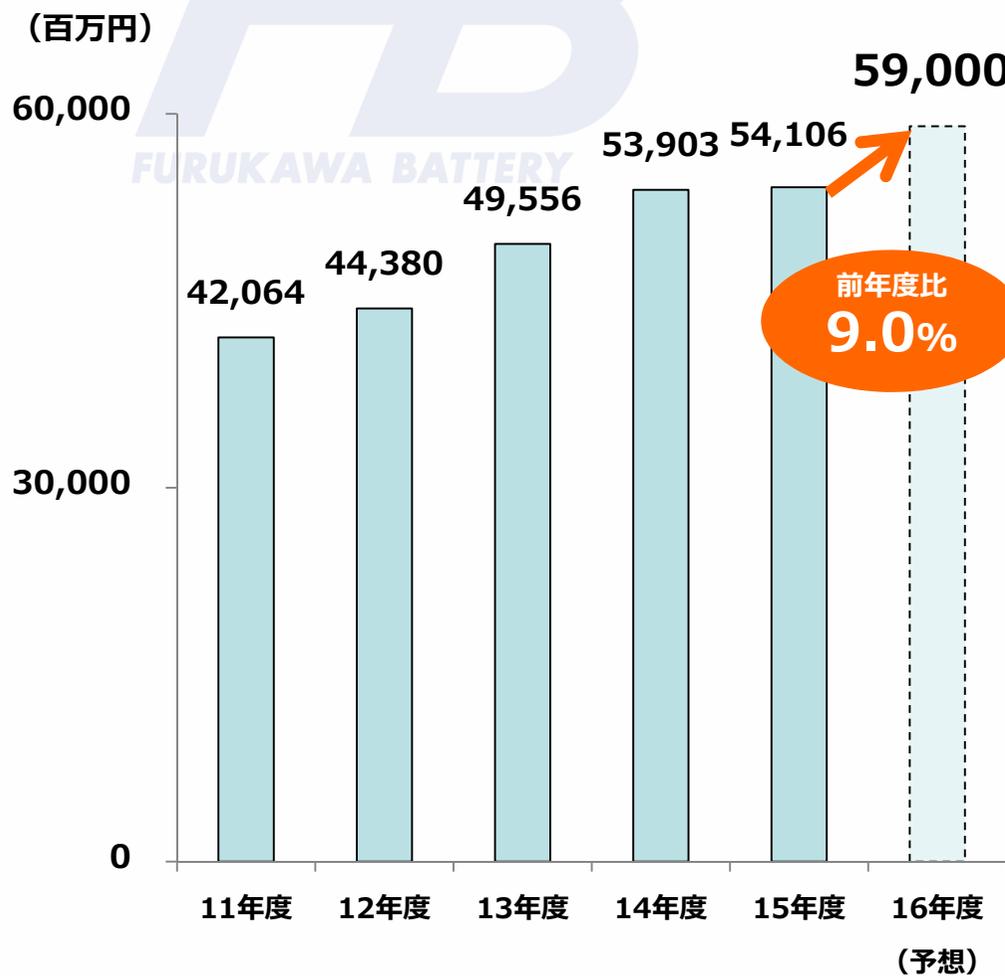
16年度上期決算ハイライト

連結業績	売上は減少も、売上原価の減少やタイの販売好調等により増益		
	売上高	23,756百万円	前年同期比 4.5% (1,124百万円) 減
	営業利益	798百万円	前年同期比 56.7% (289百万円) 増
自動車 セグメント	為替・鉛価格下落により減収も、売上原価の減少やタイの販売好調等で増益		
	売上高	16,819百万円	前年同期比 5.3% (937百万円) 減
	営業利益	354百万円	前年同期比 94.0% (171百万円) 増
産業 セグメント	前年同期の海外向け案件の反動で減収も、売上原価の減少などにより増益		
	売上高	7,168百万円	前年同期比 2.0% (146百万円) 減
	営業利益	345百万円	前年同期比 21.6% (61百万円) 増
海外 売上高	タイは現地通貨ベースでは増収増益も、円高の影響により円ベースでは減収		
	売上高	8,257百万円	前年同期比 13.1% (1,246百万円) 減
	売上高比率	34.8%	前年同期比 3.4pt 減

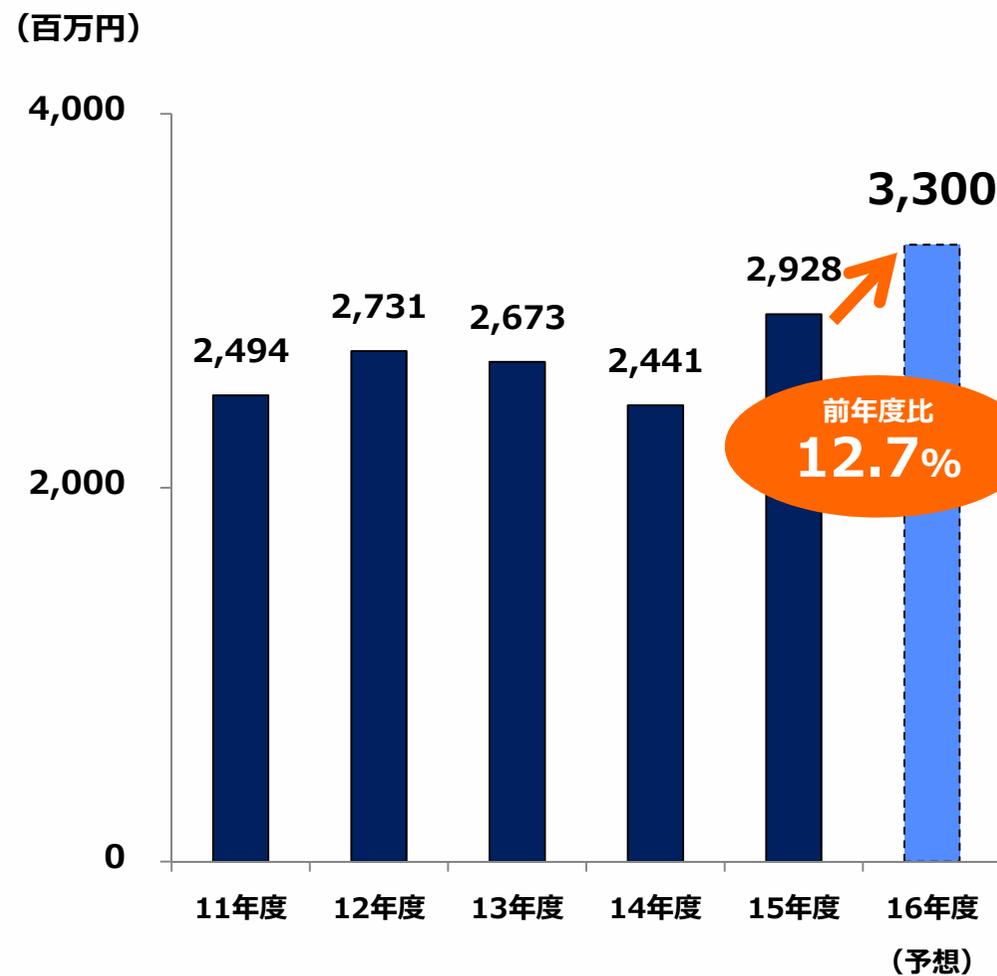
※ セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含みます。

連結業績の推移

■ 連結売上高



■ 連結営業利益



セグメント別 16年度の見通し（連結）

■ 自動車セグメント

- ✓ いわき工場の合理化の加速を核に、増収増益を目指す
- ✓ FIBMの販売網を強化し、海外展開の加速を見込む

■ 産業セグメント

- ✓ 今市事業所革新による合理化・生産効率のアップ・コストダウンの実現
- ✓ 各種再生エネルギーによる発電・電力自由化等の市場変化に対し、多様なプロダクトで対応予定

目次



1. 会社紹介
2. 16年度第2四半期決算・通期業績予想ハイライト
3. **中期ビジョン2018の進捗**

2018年中期ビジョン

■ 主要経営指標



■ 拡大へのキーワード

- 事業拡大による売上増 (新製品、新規市場、海外)
- 効率化と合理化による利益率増 (集約、コスト削減)
- 海外拠点拡大による海外売上高比率増 (拠点能力拡大、新拠点)

海外での進捗①

■ ベトナムPINACO社*の株式取得

* Dry Cell and Storage Battery
Joint Stock Company

海外事業展開における中長期的成長戦略の実現

ベトナムにおける自動車用・産業用電池販売・アフターサービス
一貫提供体制を構築

PINACO
ベトナム国内外の
ネットワーク



古河電池
技術・営業の
ノウハウ



前列左から3人目がPINACO社のVAN社長

海外での進捗②

■ SFC（タイ）の生産体制増強

– 2012年からの継続的な設備増強

年	件名	効果
2012	パンチング設備	鉛量削減160t/年
2012-2015	新充電工程1-4期	能力増強160%
2013	二輪用電池組立新ライン	能力増強130%
2014	四輪用電池組立新ライン	能力増強130%
2014	四輪用電池新出荷ライン	能力増強145%

■ FIBM（インドネシア）の状況

– 早期のフル操業レベルの販売実現に向けた施策を加速

- 二輪電池の商流を活用した四輪電池の販売検討
- 複数の日系自動車メーカー向けプロモーションスタート
 - ✓ 斡旋販売・ホームデリバリ・FB専用販売など
- ディーラー向けアプローチの強化

海外展開の状況

インド【技術支援】

Exide Industries Limited

自動車用/二輪車用

中国【技術支援】

青島亜通达铁路设备有限公司 (ATD)

鉄道車両用(アルカリ)

山东圣阳电源股份有限公司 (Sacred Sun)

産業用鉛

ベトナム【資本提携】

Dry Cell and Storage Battery Joint Stock Company
(ドライセルアンドストレージバッテリー : PINACO)

2016年9月に株式取得。No.2株主に

タイ【連結(完全)子会社】



SIAM FURUKAWA CO., LTD.

(サイアム・フルカワ社 : SFC)

自動車用電池の販売が堅調に推移
連結業績の増収・増益に寄与
借入金なしの健全な経営状況

インドネシア【連結子会社】



PT. FURUKAWA INDOMOBIL BATTERY MANUFACTURING
(フルカワ インドモービルバッテリー マニュファクチャリング : FIBM)

2015年2月 新工場竣工。販売網の拡充に注力中

国内での進捗

■ 自動車電池事業

– 工場合理化・高付加価値新製品充実による採算性の維持向上に注力

- ISS、補機の市販市場においては顧客からコストダウン、品質改良（兼用化・高容量化）の要求あり、対応検討中
- EN規格搭載のトヨタ プリウスの好調継続



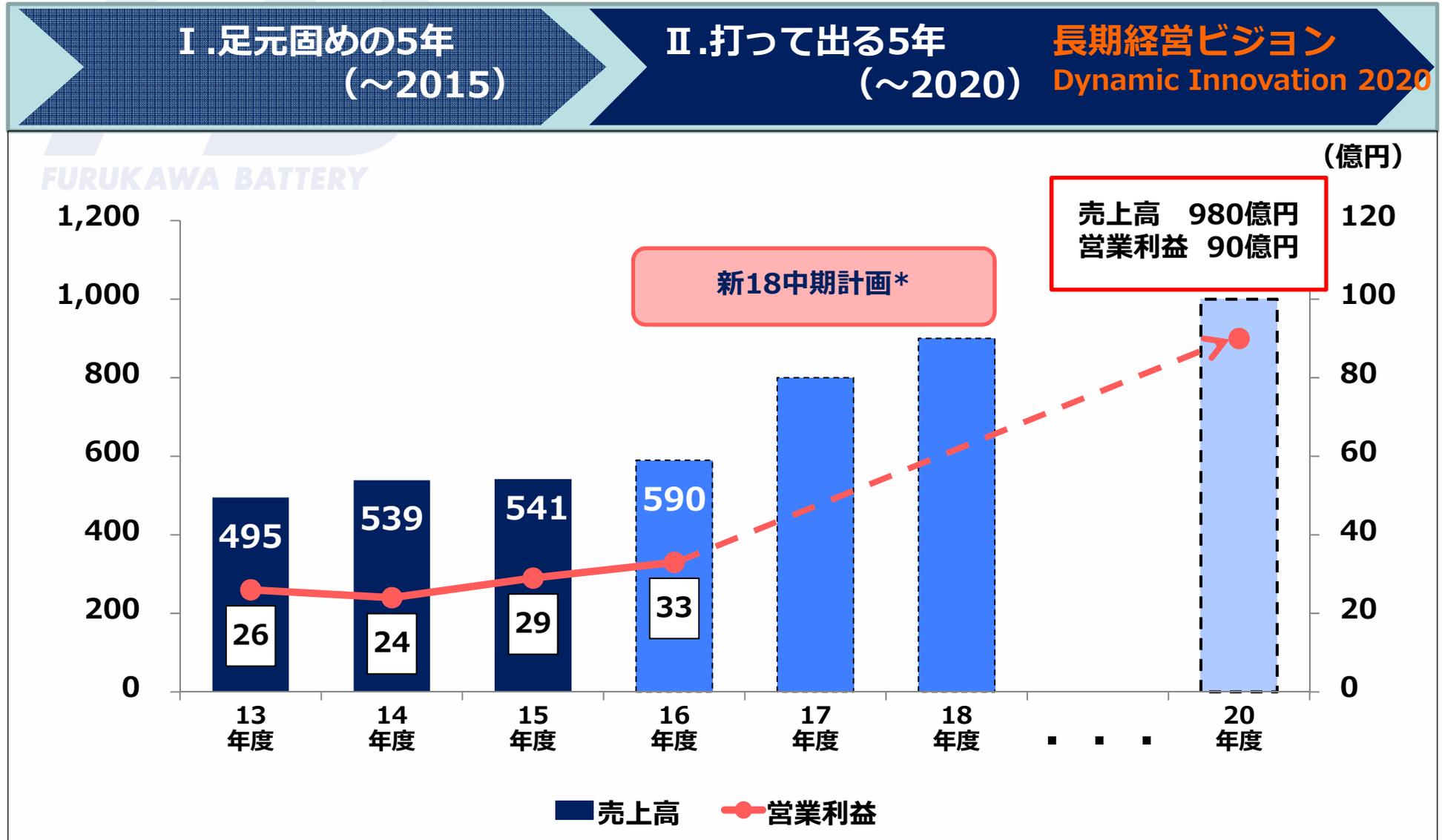
製造現場（新充電工程）

■ 産業機器事業

– 国内成熟市場におけるプレゼンスの維持向上に注力

- 据置鉛蓄電池の新ライン構築のための設備増強着手
- 針貝工場の蓄電実証システム構築

長期経営ビジョン



《参考》16年度上期の主な対外発表案件

- 熊本地震被災地向けMgBOX（マグボックス）緊急出荷
- G7伊勢志摩サミット 国際メディアセンターにてMgBOX広報展示
- 中期経営計画「中期ビジョン2018」策定 中計
- 決算・中期経営計画説明会開催 決算 中計
- オフィス防災EXPOに出展
- アジアカロスカントリーラリー2016 協賛 海外
- 関西二次電池展（バッテリー大阪）に出展
- ベトナム 蓄電池メーカーPINACO社の株式取得 海外 中計

《参考》G7伊勢志摩サミットでのMgBOX展示

- 国際メディアセンター(IMC)に
広報展示および非常用電源としてMgBOX配置

FURUKAWA BATTERY



IMCでの展示の様子



徳山社長とIMCエントランス

《参考》アジアクロスカントリーラリー2016 協賛

■ 今年で3回目の協賛

- 主に東南アジアにおける認知度向上・技術宣伝を目的としたプロモーション活動のひとつ
- SFC社の業績は、市販の販売好調を軸に増収基調で推移



将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 為替相場の変動による影響
- ・ 主要製品に使用される原材料の価格変動
- ・ 海外における政治的および社会的リスク
- ・ 取引先の業績悪化等
- ・ 自然災害の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

(注) 当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。
年度表記について、14年度は2015年3月期、15年度は2016年3月期（以下同様）を表しています。